

令和6年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	理学療法評価学	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	病院にて患者の評価・検査経験40年を有する	担当者	河元 岩男	授業方法	講義・演習	単位数	2
到達目標	1. 評価の意義、目的、過程を理解する。 2. 評価に必要な基本情報を理解する。 3. 意識障害・全身状態の評価を理解し実施できる。 4. 形態測定を理解し実施できる。 5. 関節可動域検査を理解し実施できる。 6. 検査測定に必要な触診ができる。 7. 得られた結果を解釈できる。			評価方法			
授業概要	評価の目的、意義、過程、基本情報収集の意味を理解し、意識障害・バイタルサイン・形態測定・関節可動域検査を実施できアセスメントの考え方を学ぶ。また、評価に際して必要な触診も実施します。			確認テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法評価学第6版、機能解剖学的触診技術	使用器材	メジャー、ゴニオメーター、ストップウォッチ、聴診器				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週 (2コマ)	総論:意義、目的、過程、手順、対象、目的、記録、問題リスト、治療プログラム 各論:第1章 一般的评价事項						
第2週 (2コマ)	第2章 バイタルサイン 総論、実際						
第3週 (2コマ)	第3章 形態測定 総論、実際						
第4週 (2コマ)	前回までのまとめ 確認テスト1(実技試験)						
第5週 (2コマ)	第4章 関節可動域測定、総論 触診、実際1 肩関節						
第6週 (2コマ)	第4章 関節可動域測定 関節可動域 触診、実際2 肩関節、肩甲帯						
第7週 (2コマ)	第4章 関節可動域測定 関節可動域 触診、実際3 肘・前腕の関節、手関節						
第8週 (2コマ)	前回までのまとめ 確認テスト2(実技試験)						
第9週 (2コマ)	第4章 関節可動域測定 関節可動域 触診、実際4 股関節、膝関節						
第10週 (2コマ)	第4章 関節可動域測定 関節可動域 触診、実際5 膝関節、足関節						
第11週 (2コマ)	前回までのまとめ 確認テスト3(実技試験)						
第12週 (2コマ)	第4章 関節可動域測定 関節可動域 触診、実際6 体幹 頸部、胸腰椎						
第13週 (2コマ)	第4章 関節可動域測定 関節可動域 触診、実際6 体幹 頸部、胸腰椎						
第14週 (2コマ)	前回までのまとめ 確認テスト4(実技試験)						
第15週 (2コマ)	アセスメントについて、国家試験問題解説、総まとめ、試験対策						
授業外 学習指示等	授業の進行にあわせ運動学、解剖学、生理学を復習しましょう。触診もしっかりできるようになりましょう。						

令和6年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	解剖学Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 内臓の各臓器の形態と各部位の名称を理解・説明できる。 2 内臓の機能解剖学的意味合いを理解・説明できる。			評価方法			
授業概要	人体における内臓・脈管系について学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTビジュアルテキスト解剖学 プロメテウス解剖学アトラス(胸部・腹部・骨盤部)	使用器材	パソコン・解剖学DVD・配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	解剖学内臓・血管系総論(PT・OTビジュアルテキスト解剖学の教科書P225・226)						
第2週	循環器系解剖(血管の構造 教科書P226～230)						
第3週	循環器系解剖(心臓 教科書P230～237)						
第4週	循環器系解剖(全身の動静脈 教科書P238～245)						
第5週	呼吸器系解剖(鼻・咽頭・喉頭 教科書P246～251)						
第6週	呼吸器系解剖(気管・肺 教科書P252～260)						
第7週	消化器系解剖(口腔・食道・胃 教科書P262～273)						
第8週	消化器系解剖(小腸・大腸・肝臓 教科書P273～284)						
第9週	消化器系解剖(胆嚢・膵臓・腹膜 教科書P283～287)						
第10週	内分泌系解剖(副腎 教科書P295)						
第11週	泌尿器系解剖(腎臓・膀胱 教科書P299～303)						
第12週	泌尿器系解剖(尿道・生殖器 教科書P303～310)						
第13週	国家試験過去問①(内臓・血管系)						
第14週	国家試験過去問②(内臓・血管系)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1.事前に教科書を熟読し、分からない医学用語等を調べておくこと。 2.復習では、プロメテウス解剖学アトラスで各臓器の形態や各部位の名称をノートにまとめること。						

令和6年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	精神医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	精神医学の基礎を学ぶ ・疾患に対する特徴と治療法・診察方法を学ぶ ・パーソナリティについて学ぶ			評価方法			
授業概要	精神疾患について理解する。			期末試験 100%  (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	精神神経疾患ビジュアルブック	使用器材	パソコン・精神疾患のDVD				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	精神医学とは VIDEO:精神機能と障害						
第2週	器質性精神障害:総論 アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症						
第3週	ピック病・レビー小体型認知症 VIDEO:認知症						
第4週	てんかん 国試問題						
第5週	アルコール依存症・アルコール以外の精神作用物質依存 VIDEO:物質依存						
第6週	うつ病 国試問題						
第7週	双曲性障害 VIDEO:うつ病・双極性障害						
第8週	統合失調症 VIDEO:統合失調症						
第9週	統合失調症(妄想の分類を中心的に問題)						
第10週	妄想性障害 不安と不安障害 強迫性障害						
第11週	VIDEO:不安症・強迫症 急性ストレス反応						
第12週	PTSD・睡眠障害 VIDEO:睡眠障害						
第13週	摂食障害 VIDEO:青年期の精神障害						
第14週	パーソナリティー障害						
第15週	国家試験過去問1(精神医学分野)						
授業外学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和6年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	内科学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	内臓に障害が起こると、どのような障害が出るのかを、国家試験の過去問を中心に解きながら理解できるようになる。			評価方法			
授業概要	厚生労働省の示しているPT・OTの卒前教育として指示されている[内科学]の基礎的知識を理解する。			定期試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	必修ポイント2024 臨床医学	使用器材	パソコン・プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	循環器疾患(虚血性心疾患・心不全)						
第2週	循環器疾患(不整脈・種々の心疾患・肺塞栓症, 脳塞栓症)						
第3週	循環器疾患のテスト						
第4週	代謝性疾患(糖尿病・低血糖症状・メタボリックシンドローム)						
第5週	代謝性疾患のテスト						
第6週	呼吸器疾患(閉塞性換気障害と拘束性換気障害・種々の呼吸器疾患, 呼吸障害・スパイロメトリー)						
第7週	呼吸器疾患のテスト						
第8週	消化器疾患(種々の消化器疾患・腸疾患)						
第9週	消化器疾患テスト						
第10週	肝疾患(肝炎・肝硬変)・内分泌疾患(分泌異常と疾患)						
第11週	肝疾患・内分泌疾患のテスト						
第12週	膠原病・自己免疫疾患・泌尿器疾患						
第13週	膠原病・自己免疫疾患・泌尿器疾患のテスト						
第14週	血液疾患・薬物療法						
第15週	血液疾患・薬物療法のテスト						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和6年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	臨床心理学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	チーム医療、メンタルサポート介入経験有り	担当者	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	臨床心理学の基礎的な概念や理論を学ぶ。 1) 心理アセスメントの基本的な方法、解釈法について学ぶ。 2) 心理臨床の基本的な態度、心理療法の基礎について学ぶ。			評価方法			
授業概要	国家試験の内容をふまえて重要項目を解説しながら、心理臨床にまつわる視点や心理療法について学ぶことで、将来対人援助職として他者に関わる際の一助となることを目的とする。			定期試験 50% 単元試験 50%  (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はじめて学ぶ人の臨床心理学	使用器材	液晶プロジェクター パソコン 配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	オリエンテーション						
第2週	グループワーク						
第3週	グループワーク						
第4週	心理療法1 (p25～p108) 精神分析・分析心理学・行動療法について説明できる。						
第5週	心理療法2 (p25～p108) 認知行動療法・来談者中心療法・ゲシュタルト療法について説明できる。						
第6週	心理療法3 (p25～p108) 交流分析・システムアプローチについて説明できる。						
第7週	心理療法4 (p25～p108) 家族療法・短期療法・森田療法・内観療法について説明できる。						
第8週	心理療法5 (p25～p108) 催眠療法・自律訓練法・遊戯療法について説明できる。						
第9週	心理療法6 (p25～p108) 芸術療法・フォーカシング・EMDR・TFT・ライティング法について説明できる。						
第10週	単元試験(心理療法)						
第11週	パーソナリティ障害(p110～p117) パーソナリティの分類と各障害が説明できる。						
第12週	心理テスト(p140～p146) 知能テストの各テストについて説明ができる。						
第13週	心理テスト(p140～p146) 投影法の各テストについて説明できる。						
第14週	心理テスト(p140～p146) 作業検査の各テストについて説明できる。						
第15週	リハビリテーション心理学 障害受容について説明できる。						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和6年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	解剖学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	神経系の基礎である構造と機能を学ぶ。その内容を活用し理学療法の評価及び治療を展開する力を養う事を目標とする。 1) 神経系の基本的な構成を説明することができる。 2) 中枢神経系と末梢神経系の構成をそれぞれ理解し、役割と関連付けて説明することができる。 3) 大脳皮質の各領域ならびに機能局在について理解する。 4) 脊髄の上行路と下行路を説明することができる。 5) 脊髄神経、脳神経、自律神経の構成と役割の違いを理解する。			評価方法			
授業概要	人体、特に神経系・感覚器系の形態・機能・構造の概要の教育、理学療法士として理解が必要であると考えられる事項の教育。			定期試験 60% 単元試験 40% 成績評価は授業ごとの要点をまとめた授業範囲の単元試験と定期試験の総合により評価する。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部神経解剖 PT/OTビジュアルテキスト 専門基礎解剖学	使用器材	パソコン 配布資料 DVD				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週 (2コマ)	第10章 神経系 1. 神経系の区分と2. 神経系を構成する細胞(支持細胞)について説明できる						
第2週 (2コマ)	第10章 神経系 2. 神経線維と興奮伝導・灰白質と白質について説明できる						
第3週 (2コマ)	第10章 神経系 3. 中枢神経系の構成 大脳の構成と役割について説明できる 単元試験1						
第4週 (2コマ)	第10章 神経系 3. 中枢神経系の構成 大脳の構成と役割について説明できる						
第5週 (2コマ)	第10章 神経系 3. 中枢神経系の構成 大脳の構成と役割について説明できる 大脳基底核、大脳髄質、脳室、髄膜について説明できる						
第6週 (2コマ)	第10章 神経系 3. 中枢神経系の構成 小脳、間脳について説明できる 単元試験2						
第7週 (2コマ)	第10章 神経系 3. 中枢神経系の構成 脳幹について説明できる 脊髄の構成と役割について説明できる						
第8週 (2コマ)	第10章 神経系 3. 中枢神経系の構成 脊髄の構成と役割について説明できる						
第9週 (2コマ)	第10章 神経系 3. 中枢神経系の構成 運動の伝導路(錐体路・錐体外路)						
第10週 (2コマ)	第10章 神経系 4. 末梢神経系の構成 神経線維の機能的区分について説明できる 脊髄神経の構成と役割について説明できる 単元試験3						
第11週 (2コマ)	第10章 神経系 4. 末梢神経系の構成 神経線維の機能的区分について説明できる 脊髄神経の構成と役割について説明できる						
第12週 (2コマ)	第10章 神経系 4. 末梢神経系の構成 脳神経の構成と役割について説明できる						
第13週 (2コマ)	第10章 神経系 5. 自律神経 自律神経系の構成と役割について説明できる 単元試験4						
第14週 (2コマ)	第11章 感覚器系 1. 外皮、2. 視覚器の構成役割について説明できる						
第15週 (2コマ)	第11章 感覚器系 2. 視覚器、3. 平衡聴覚器(耳)、4. 嗅覚器、5. 味覚器の構成と役割について説明できる						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和6年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	生理学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	チーム医療、メンタルサポート介入経験有り	担当者	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	各臓器における構造と機能を理解し、生理学の基礎知識を学び、その内容を活用し理学療法の評価及び治療を展開する力を養う事を目標とする。また、国家試験過去問を授業資料として入れていく。 1)解剖学・運動学で学ぶことと関連付けができるようになる。 2)専門用語を理解し、正しく活用することができるようになる。			評価方法			
授業概要	人体の各器官の基礎的生理機能を理解する。理学療法にとって重要な器官に関しては詳細にかつ病態について学習する。			定期試験 70% 単元試験 30% 成績評価は授業ごとの要点をまとめた授業範囲の単元試験と定期試験の総合により評価する。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学OT学 専門基礎分野 生理学	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週 (2コマ)	心臓と循環(第8章) 心臓の自動性と刺激伝導系について説明できる。心電図の記録法と各波形の意味について説明できる。						
第2週 (2コマ)	心臓と循環(第8章) 心拍出量と血圧を説明できる。心周期と心室の圧-容積関係、心機能曲線について説明できる。血圧の調節メカニズムを説明できる。						
第3週 (2コマ)	心臓と循環(第8章) 微小循環領域における物質交換のメカニズムを説明できる。重要な臓器・組織の循環の特徴を説明できる。						
第4週 (2コマ)	心臓と循環(第8章) 血圧計を使用し測定してみる。						
第5週 (2コマ)	呼吸とガスの運搬(第9章) 気道の構成とその役割を説明できる。呼吸運動と呼吸気量の分画について説明できる。 単元試験1(第8章)						
第6週 (2コマ)	呼吸とガスの運搬(第9章) 肺におけるガス交換と血液によるガスの運搬について説明できる。化学受容器と呼吸の調節を説明できる。 呼吸不全と病的不全を分類し説明できる。						
第7週 (2コマ)	尿の生成と排泄(第10章) 腎臓の構造と役割を概説できる。尿の生成メカニズムを説明できる。						
第8週 (2コマ)	尿の生成と排泄(第10章) クリアランスと糸球体濾過量、腎血漿流量の意味を説明できる。畜尿反射と排尿反射を説明できる。 排尿の異常を説明できる。						
第9週 (2コマ)	尿の生成と排泄(第10章) 血漿pH調節の意義と緩衝系について説明できる。アシドーシスとアルカローシスを分類し、その原因と代償機序を説明できる。						
第10週 (2コマ)	消化と吸収(第11章) 消化管の各部位における消化メカニズムを説明できる。消化管各部位において分泌される消化液をあげ、その役割を説明できる。単元試験2(第9、10章)						
第11週 (2コマ)	消化と吸収(第11章) 消化管のホルモンをあげ、その役割を説明できる。小腸における各栄養素の吸収を説明できる。肝臓の役割を説明できる。						
第12週 (2コマ)	内分泌(第12章) ホルモンの作用、種類、作用の発現メカニズムを概説できる。ホルモン分泌の調節メカニズムを分類して説明できる。						
第13週 (2コマ)	内分泌(第12章) 内分泌腺をあげ、そこから分泌されるホルモンの機能を説明できる。						
第14週 (2コマ)	生殖と発生・成長と老化(第13章) 男性生殖機能を説明できる。女性生殖機能を説明できる。受精と着床について説明できる。 単元試験4(第11、12章)						
第15週 (2コマ)	生殖と発生・成長と老化(第13章) 運動生理(第16章) 分娩と授乳について説明できる。成長と老化の家庭を説明できる。筋肉と持久力について説明できる。筋収縮のエネルギー源について説明できる。運動に伴う全身の変化を説明できる。筋力に対するトレーニングと老化の影響を説明できる。						
授業外 学習指示等	授業中に提示される学習課題をノートにまとめる。						

令和6年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	整形外科学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整形外科疾患の患者に対する治療経験13年	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 整形外科疾患の病態を理解できる。 2. 整形外科疾患の症状・理学所見・診断方法を理解できる。 3. 整形外科疾患の保存・手術治療を理解できる。 4. 整形外科疾患のリハビリテーション治療を理解できる。			評価方法			
授業概要	整形外科領域における疾患について総論を中心に学習する。国家試験の過去問を授業資料として取り入れ、理解を深める。			期末試験 70% 単元試験 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	整形外科疾患ビジュアルブック	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	整形外科学 I 総論						
第2週	症状と検査(身体所見、関節機能の異常、異常歩行)						
第3週	症状と検査、治療法(痛みの評価、一般画像検査、保存療法と手術療法)						
第4週	単元試験1						
第5週	運動器疾患総論1 四肢脊椎の先天奇形、骨系統疾患、骨・関節・筋肉の感染症						
第6週	運動器疾患総論2 骨・軟部腫瘍、慢性関節疾患(退行性・代謝性)						
第7週	運動器疾患総論3 関節リウマチと類縁疾患						
第8週	運動器疾患総論4 代謝性骨疾患、神経・筋疾患						
第9週	単元試験2						
第10週	運動器疾患総論5 四肢循環障害、腱・腱鞘の疾患						
第11週	運動器の外傷1 骨折・脱臼、骨折の合併症、捻挫・打撲						
第12週	運動器の外傷2 血管損傷、区画症候群、皮膚損傷、筋損傷、挫滅症候群、四肢切断						
第13週	運動器の外傷3 腱・靭帯損傷、スポーツ障害、末梢神経損傷、脊椎・脊髄損傷						
第14週	単元試験3						
第15週	定期試験対策						
授業外学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和6年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	病理学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 病気の発生機序および身体に及ぼす異常について理解し、説明ができる。 2. 病気に関わる専門用語の定義が理解できる。			評価方法			
授業概要	病理学の領域における疾患について、総論を中心にグループワークを用いて学習する。 国家試験の過去問を授業資料として取り入れ、理解を深める。			期末試験	60%	単元試験	30%
				課題提出	10%	(100点換算で60点以上で合格)	
教科書等	カラーで学べる 病理学	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	病理学 総論						
第2週	細胞・組織とその障害(細胞の構造と機能、組織、壊死とアポトーシス)						
第3週	再生と修復(再生と再生医療、創傷治癒と肉芽組織、肥大と過形成)						
第4週	循環障害(生体と循環のしくみ、充血とうっ血、出血、浮腫、高血圧)						
第5週	単元試験1						
第6週	炎症(炎症の基本病変、急性炎症の種類、慢性炎症のしくみなど)						
第7週	免疫とアレルギー(生体における免疫系の役割、免疫系のしくみと働き、アレルギー)						
第8週	感染症(感染症とは、感染様式・経路・潜伏期間、感染臓器と病原菌、感染の予防と制御)						
第9週	単元試験2						
第10週	代謝異常(脂質代謝異常、糖質代謝異常、たんぱく質代謝異常、生活習慣病)						
第11週	老化と老年病(生理的老化と病気、老化のしくみ、脳と運動器の老化と病気)						
第12週	先天異常(遺伝性疾患、主な先天異常、ダウン症候群)						
第13週	腫瘍(腫瘍の分類と形態、悪性腫瘍の進展と転移、腫瘍の疫学)						
第14週	単元試験3						
第15週	定期試験対策						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和6年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	運動学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	大久保謙太郎	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 四肢と体幹の基礎運動学を理解できる。 2. 四肢と体幹の応用運動学を実習を通して理解できる。 3. 四肢と体幹の運動学を臨床に応用できる。 4. 姿勢の基礎運動学が理解できる。			評価方法			
授業概要	ヒトの四肢および体幹の運動の捉え方、表現方法を把握し、それぞれの関節構造・機能、筋の働きを学ぶ。姿勢についての基礎を理解する。			期末試験 60% 小テスト 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのための運動学テキスト	使用器材	等身大骨格模型、筋模系、ビデオ				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週 (2コマ)	肩甲骨・肩 1						
第2週 (2コマ)	肩甲骨・肩 2						
第3週 (2コマ)	肘・前腕						
第4週 (2コマ)	手関節・手						
第5週 (2コマ)	前回までのまとめ、確認小テスト1						
第6週 (2コマ)	骨盤帯・股						
第7週 (2コマ)	膝・下腿						
第8週 (2コマ)	足・足関節						
第9週 (2コマ)	前回までのまとめ、確認小テスト2						
第10週 (2コマ)	頭部・顔面						
第11週 (2コマ)	脊柱1						
第12週 (2コマ)	脊柱2						
第13週 (2コマ)	前回までのまとめ、確認小テスト3						
第14週 (2コマ)	姿勢						
第15週 (2コマ)	まとめ						
授業外 学習指示等	授業の進行に併せ解剖学、生理学を復習しましょう。						

令和6年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	人間発達学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	現在小児発達系施設に勤務中	担当者	小倉秋奈	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人間の成長課程における、発達状況の特徴を述べるができる。 発達段階における変化に対応するために基礎的知識の概要を習得する。			評価方法 期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	人間は生涯発達する存在として捉え、生命の誕生から死に至るまでの量的、質的变化を学び、各発達段階に生じやすい発達上・健康上の問題と急速に変化した日本の社会問題への対応、解決策をも同時に学習する。						
教科書等	コメディカルのための専門基礎分野 テキスト 人間発達学	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	人間発達学概論(発達とは、発達理論)						
第2週	生命の誕生(出生前・後) 乳児期①(身体的発達) 原始反射・姿勢反射①						
第3週	原始反射・姿勢反射②						
第4週	原始反射・姿勢反射③ 乳児期②(運動的発達 その1)						
第5週	乳児期③(運動的発達 その2)						
第6週	乳児期④(運動的発達 その3、 認知的発達)						
第7週	乳児期⑤(情緒・社会的発達)						
第8週	幼児期①(身体的発達、運動的発達)						
第9週	幼児期②(認知的発達、情緒・社会的発達)						
第10週	学童期						
第11週	青年期						
第12週	成人期①						
第13週	成人期②						
第14週	高齢期 死、そして受容						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						